

平成26年度 公益社団法人日本補綴歯科学会 西関東支部サマースクール

佐藤 洋平

サマースクールとは、今回の趣向 補綴学会の支部会の中でも西関東支部会は所属歯科大学が2つしかない支部会です。なのに顔と名前が一致せず、特に若手は別の研究会等であっても挨拶も出来ない状態でした。そこで2012年に支部会内の親睦を深める目的と臨床を中心に学ぶ機会を作る目的で西関東支部会のサマースクールが開催されるようになりました。年一回、マホロバマインズ三浦で夏の終わりに開催されています。



これまでの二回は各参加団体から渾身のケースプレゼンテーションを披露してもらい、お互いに勉強し合うスタイルでした。講座の特色を生かした興味ある内容で、ディスカッションも多岐にわたりました。多くのクリニカルクエッション (CQ) が議論の対象になって来ました。これまで、このCQを経験の豊富な先生方から解決して頂いていた部分が多かったと思います。第3回となる今回は趣向が異なりました。



治療計画立案に関するワークショップ形式となりました。ワークショップは「エビデンスに基づく治療計画の立案について」というテーマです。

補綴学会員の臨床判断、臨床技能の向上を目的とし、症型分類や診療ガイドライン等を活用し、エビデンスに基づく治療計画立案能力を高めるという一般目標のもとに行われました。



前半は補綴学会専門医研修セミナーが開催されました。テーマはワークショップと同じ「エビデンスに基づく補綴処置の治療計画立案について」です。補綴学会理事長の矢谷博文（大阪大）教授による「エビデンスを活用した治療の立案」、ガイドライン作成委員会委員長の藤沢政紀（明海大）教授による「補綴学会が提唱しているガイドラインについて」、同副委員長の松香芳三（徳島大）には「ガイドラインの作成手順と活用法」をご講演いただきました。



スモールグループディスカッション（SGD）では、問題点の抽出、カテゴリー分類、治療目標の設定、診療ガイドラインを踏まえた治療計画を立案しました。



若手、中堅、ベテランの年代ごとにグループを分けたので若手、中堅がノビノビ？

夕食を兼ねた懇親会では鶴見、神奈川歯科の大学間の講座間の垣根を越えて親睦が深められました。

←最も楽しそうに最後まで飲み続けた面々。



アルコールによる顔のムクミも残る中、前日のSGDの結果を真面目に発表し、討論しました。今回の課題となった症例は小計分類でも難症例に分類されます。この症例にベテラン組と若手で比較的似た治療計画が立案出来たということはガイドラインは有用だと思われまます。



最後に課題症例の担当医だった大久保教授、小川教授による実際の治療過程が供覧されました。楽しみながら勉強出来た素敵な二日間でした。